

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649
振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

FAX(03)3299-5367

購読料 月額600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

「今こそ憲法の時代を開く」五・三集會に参集を
皆さんに訴える 國弘正雄(参議院議員).....2

市民の期待に應える党づくり.....3

臨教審「私の選挙戦 鴨 哲登志
——教育の規制緩和がもたらすもの——」.....6

久保・社会党執行部は責任上総辞職を.....7

——新党(リベラル)の清算なくして再建なし——
◆そこが知りたい 円高、ドル安の経済学(二)◆
円はどこまであがるの.....10

◆「社会通信」六百号に寄す◆

私の生き甲斐、健康法 真鍋知己.....13

裏切り共を退散させよう 木村哲蔵.....13

驚異の六百号 小林 晃.....14

問われる労働組合の存在意義.....15

——阪神大震災下の労組の役割は?——
読者からのおたより.....16

◆好評発売中 上野建一著 社会通信刊◆
政界再編後を読む——護憲の旗を掲げて

A6判上製、二百頁、千五百円(千三百十円)

旬刊 社会通信

NO. 602

一九九五年四月二日

一九九五年四月二日発行
(毎月一日・二日・三日三回発行)

■巻頭言■

「今こそ憲法の時代を開く」五・三集会に参集を

皆さんに訴える 國弘正雄（参議院議員）

政治や政治家、そしてその政治家を選び出す選挙という仕組みに対する一般有権者国民の不信が、いまや奈落を打とうとしています。政治不信などという段階はもうとつくに通り越し、政治否認ともいべき超底値を日に日に更新しつつあります。最近の各級選挙における超低投票率が、そのことを待たなし、否応なしの確かさで私たちに突きつけています。入れる党がない、入れたい候補者がいない、という喘ぎや悲鳴にも似た声を私どもはどれほど耳にしたことでしょうか。代議制度そのものの妥当性や存立が大きく問われているのです。

このような政治の液化化現象を招き寄せた理由はいくつもあるでしょうし、それはそれで精査に値いますが、その責任の一端が、日本社会党にもあることはあまりにも明白です。戦後民主主義と日本の今日の発展の大きな担い手であった憲法の文言や精神をないがしろにし、長年の公約たる護憲の立場をその時どきの理由を構えては一つひとつ捨て去ってきたのは日本社会党の変質だったからです。多くの良心的な国民有権者がこの変質に困惑し、怒り、悲しみ、そのゆえに社会党に対してのみならず、政治そのもの、選挙そのものに三行半を突きつけるに至ったのです。ましてや委員長、書記長経験者の口から解党の声が公然と聞かれるにおいては、さしたる社会的利益や物質的恩恵もないままに時としては周囲の不信やさげすみすらあえて日本社会党を黙々と支持してきた有権者国民は途方にくれるばかりです。その結果、「赤ん坊にお湯をつかわせた後にお湯ごと赤ん坊を放り出してしまおう」という英語のことわざながらに、社会党への不信や失望が、政治自体、選挙そのものの否認に少なからず寄与しているのです。

かくして日本社会党の罪は重いとせねばなりません。社会党の自発的解党はまだしも、それが戦後民主主義の解体に向かいかねないからです。社会党のおとむらひは、戦後民主主義そのものの挽歌を聞くことになりかねません。ましてや解党を声高かに呼ばわる指導者のだれかれの本音が、実は強権政治そのものの、憲法を事実上も文言上も骨抜きにしようとする政治勢力ないしは政治哲学と陰に陽に誼（よし）みを通じ、それとの協力さらには合体にあるとすればもはや何をかいわんや、と絶望のうめきをあげざるを得ません。

であるとすると、護憲を標榜することで戦後民主主義の保全に貢献してきた社会党のこのような無残さわまりない変質を目前にして、憲法の果たし来った貴重な役割——それは対外的には諸外国の対日不信や警戒心に執行猶予を付けたという点で日本の復興や発展を担保してきました。——に改めて思いをいたし、憲法や戦後民主主義のこれ以上の崩落を防ぎ、加えてその賦活化を計るべく、志を同じくし憂いを均しくする各界各層の広範な有権者国民が、小異はあえて残しても大同につきべき秋（とき）が迫っている、というべきでしょう。差し迫った参院選、そしてやがては行なわれる総選挙は、憲法と戦後民主主義がはたして生き残り得るかを問う重要な契機となります。

憲法と戦後民主主義をこよなく貴いものに思うならば、戦術戦略面のささいな相違を言いつのり、蝸牛角上の対立に身をやつしている余裕は、もうない筈です。大正デモクラシーや戦前の政党政治がもろくも崩れていった経緯は、私たちの胸元に白刃のごとき冷たさ

で決断を迫っているのです。

こういった思いに催され、私どもは五月三日に護憲・戦後民主主義に篤い思いを寄せるあらゆる個人やグループの集いを開き、われわれが決して時代遅れの少数派ではないことをたしかめあい、お互いの健闘を願いたいと思います。各界各層の皆さんの自由にして積極的な参加を熱望します。

※なお呼びかけ人（第一次）と集会要綱は左記のとおりです。
 「第一次呼びかけ人」 三月三十一日現在

秋葉忠利（衆議院議員）、浅井基文（明治学院大教授）、色川大吉（東京経済大教授）、矢田部理（参議院議員）、伊藤成彦（中央大教授）、田 英夫（参議院議員）、岡崎宏美（衆議院議員）、北野弘久（日本大教授）、國弘正雄（参議院議員）、辻元清美（ポースポート主宰）、小森龍邦（衆議院議員）、小林直樹（東京大名誉教授）、栗原君子（参議院議員）、高木仁三郎（原子力資料情報室）、北野 進（石川県議）、松谷 清（静岡市議）、桂井増見（兵庫県議）、西岡瑠璃子（参議院議員）、渋谷澄夫（前北海道議）、ダグラス・ラミス（津田塾大教授）、大脇雅子（参議院議員）、浜田健一（衆議院議員）、豊田勝彦（千葉県議）、保坂展人（ジャーナリスト）、姜尚中（ICU準教授）、山口哲夫（参議院議員）、星野安三郎（立正大教授）、旭堂小南陵（参議院議員）、小林孝輔（札幌大教授）、稲村稔夫（参議院議員）、金田誠一（衆議院議員）、甞正敏（参議院議員）、中尾則幸（参議院議員）、福島瑞穂（弁護士）、北沢清功（衆議院議員）、牧野 剛（予備校教師）
 （呼びかけ人はさらに拡げていきます）

◎集会日時 五月三日（水）午後五時三〇分開場 午後五時四五分閉会

◎会場 日本教育会館 大ホール（都営地下鉄・神保町下車三分）

◎主催 五・三集会実行委員会

〒102 東京都千代田区麹町四一五 第七麹町ビル三六号

TEL 〇三―三三二二―六六八〇

市民の期待に答える党づくり

私の選挙戦 鴨 哲登志

四月二三日が統一地方選挙（習志野市は市長選及び市議会議員選挙）の投票日です。正月があけてから全候補者が一斉に選挙活動に走っています。まさに今現在が選挙戦の真っ直中と言えます。

私も今、連日地元の人々や様々な関係で知り合った人のところへ足を運んでいます。私は二期八年間社会党の看板で市議員を勤めてきたので、「社会党の鴨さん」で通っています。そこで、多くの市民の皆さんと接しじっくり話す中で感じたことをもとに、社会党の在り方ということを考えてみたいと思います。

社会党の変質に怒りの声

一日に五〇人の人に会うとその内三〜四人の方から必ずと言っていいほど社会党に対する批判を聞かれます。批判や不満の声を寄せてくださる方は、皆もう何十年にわたって社会党に票を投じてきた方々です。ずうーっと社会党を愛し、頼りにしてくれた市民の皆

さんです。その皆さんが、「今の社会党は何だーどこに向かおうとしているのか」「支持者に対する裏切りだ！変質してしまったのか」とほとんど異口同音に怒りの声をあげています。山花さん達の行動を肯定する人はいません。といって村山首相をはじめ現社会党執行部の政治姿勢や政策を支持する人もほとんどいないのが現状です。

では市民の皆さんがどういう社会党を求めているのかを整理すると、実に単純明快なことですが、①金に汚れず誠実で庶民の味方の党であれ、②平和や民主主義を守ることに真面目であれ、③福祉を大切にしたい暖かい政治を築くために頑張れ、ということです。

だから私は社会党に対して不満を述べる市民の皆さんに、「私もあなたの意見とまったく同感です。中央や国会議員の多くは大義を忘れ、今までの政治信念をどこかに放り投げ、国民・市民の生活や思いを忘れてしまっている。私は一地方議員であるが皆さんが期待するような内容の政治を追求している。従って社会党が来たる党大会などで庶民の期待を担うことができない党になったら、そういう党は自分の方から願ひ下げさせてもらうつもりだ。一人でも正しいと思う旗を立てるつもりです」と答えています。

市民の目から見えない党内「左派」

私も含めてですが、党内の真面目な党員やいわゆる党内「左」派と言われる人の多くは、自分は市民の声を党内に反映し市民の期待に応える党にするために頑張っていると思っていることと思います。しかし現実には、そういう努力は市民の側からみると全くと言っていいほど見えないのです。それは市民の側が悪い訳ではありません。私たちが市民にも見えるように活動していかないということに原因があります。私は社会党の存亡さえ国民的話題になっている今日では、もはや一部の労働組合幹部や右派と言われる人達の妨害をはねのけて国民に真実を語り行動すべきだと考えています。ところが私から見れば党内「左」派と言われる活動家の大半の人達は、右派から党の分裂の脅しをかけられるとたんに物わかりの良いおとなしい羊に変わり、後はひたすら自らの運動の弱さと非力さを総括するばかりです。

私は、日本が軍国主義風潮の中、戦争に突き進んでいった経緯や世界の労働運動の歴史を考えてみると一目瞭然ですが、平和で民主主義的権利がまだ保障されている今日こそ自由とその政治的主張を明確にして頑張るべき時ではないかと思うのです。党の分裂とか組合との関係とかというほとんど得体の知れないことに金縛りになっているのではなく、国民の声に敏感に反応し一から全てを創り直す気概をもって進むべしと思うのです。

党内「左」派のもろさは国民性!?

私は左という字をカッコでくくって使っていますが、いろいろと考えてみるとこれは左ということではなく、実は最も典型的な日本人、大衆そのものの内容だと思っからです。日本人はもう何千年も農耕民族として集団的な村社会、すなわち組織の中で生きてきました。村社会の中で生きていくということは大勢の流れに逆らわない、大勢がどう動いているのか、それに順応して生きていくことです。何千年の間、生活を通して蓄積されたこの意識は一朝一夕では変わりません。孤立こそ最も忌み嫌うべきものなのです。そこで最後の土壇場になるとこの意識が頭をもたげてきます。そうなる正義や真理は実に無力なものとなります。ありとあらゆる理屈をつけて、とにもかくにも結果として、国民

の声は脇の方に追いやられてしまします。正義・真理は何かということを基準として世の中を見るという西欧文明の思考法は、まだまだ日本には定着していないのだなあと感じます。

例えば、民主主義というものの大切さを否定する人は誰もいません。しかし民主主義の大切さを力説する党员・職場活動家の皆さん自身の組合の執行部、役員選挙制度はどうなっているか知っていますかと私はたずねたい気がします。右派の執行部の組合、党内「左派」が主流派の組合、共産党が主流の組合、そういう組合が「完全連記制」の選挙制度であるというのが日本の現実です。完全連記制というのは一〇〇人組合員がいたとして、五一票を得たら全役員を独占できるという制度です。四九票はまったく役員には反映されない選挙制度です。

これは主流派にとってはまことに都合の良い選挙制度です。従って共産党も反主流の時は非民主的の制度だと批判しますが、いったん主流になるやこれを利用してこそすれ、改善しようとはしません。組合員一人ひとりの主権を忠実に反映しようとすれば単記制にするのが当然であり、それが民主主義というものです。

こういう身近な、小さな民主主義にこだわり、民主主義を貫くために闘って来なかったから、社会党内の民主主義の形骸化にも党内「左」派は抗しきれなかったのではないかと感ずています。日本の村社会的な組織・構造の中で民主主義を貫くことは考える以上は大変困難なことです。私は民主主義というのは正義・真理の大切なモノサシであると思うから、どんな場でもこだわってきました。にもかかわらず、私は党员歴二四年になりますが、この間「民主主義を大切にする人」と言われたことは一度もありません。いつも「最左派」とか「教条主義者」とか「妥協をしない」とかのいくつものレッテルを貼られて来ただけです。天が動いているのではなく地球が動いているのだということは現在誰でも知っています。しかし大勢が「天が動いているのだ」という風潮になると皆どうして「地球が動いているのだ」と言わないのか、やりきれない思いがします。これはたとえ自分一人であっても孤立しても言わなければならないことなのですから。

社会党強化の道は個の結集から

私は今後の党再建の道は国民が信頼するに足る内実を持った組織をつくることだと思っています。それには何と言っても人が一番大切です。人といえば当然個の確立というものが大切です。理性や知識を磨き、暖かい心を持ち、自分なりの世界観を確立することです。日本でも時代が大きく変わる時には日本人離れた精神構造を持った人物が生まれています。織田信長、坂本龍馬、高杉晋作などがそうだと思います。彼らには明確に自分の世界観がありました。だから当時の圧倒的多数の人々の雑多な考え方の中に埋没することなく、またどんな窮地でも孤立した状況の中でも自分の新しい世界観と判断力で世の中を変革することができました。

今は昔と全く違った世の中です。しかし日本人の精神構造自体はあまり変わっていないのではないかと思います。日本が本場に民主主義的な国になるためには、私達自身が民主主義とは何かということについてはつきりとしたものを持たなければなりません。そしてその正義と真理のやりで非民主主義的、権力的な現実の壁を突き崩していかなければなりません。そういうことに気がついた一人ひとりがまず自分で頑張り、そして結集し党という組織を創り上げていかなければならないのではないかと思います。

最後に、蛇足となりますが、こういう党の発展を私は護憲という立場でなぜ考えるかということです。

日本国憲法とはまさに民主主義の集大成です。西欧文明の中で闘いとられ、蓄積された民主主義の良い部分、エキスが反映されていると思います。もちろん当時の反動的な人々の妨害で不十分にしか民主主義が反映されなかった部分もたくさんありますが、それを考へても守るべき民主主義のエッセンスがいっぱいあります。だから護憲の旗は私達の今後の党建設の旗印として十分なものだと思います。

政党は目前の利益だけを約束するのではなく、正義と真理、人類の理想実現を指し示すべきと思います。それが多数派形成の道であると思っています。展望をもって頑張りましょう。

(習志野市議会議員)

臨教審「教育の生産性向上」運動

——教育の規制緩和のもとらすもの——

今現場では、主任層を教育改革運動の指導部として、学校活性化の提案・改革の運動（日教組は、「参加・提言・改革」と言っている）が、推進されている。その具体的運動の一つとして、「学力向上委員会」なるものが設置され、手段を選ばず、目標到達型の生産性向上運動が繰り返されている。その体制のなかでは、昨年より低い進学率は許されず、必要な提案は、実施されていく。教員の勤務評定は、生徒の学力向上で測られ、主任の勤務評定は、進学率のアップで評定される。

学力向上のためには、全員強制課外が実施され、何割かの進学エリートの学力向上を狙うために残りの生徒が犠牲にされる場合も多い。すなわち、「全ての生徒に人間らしく生きるための学力を」という「同和」教育が提起してきた、人権保障としての学習権原理が放棄されるだけでなく、邪魔にすらなるわけである。したがって、「教育の規制緩和」としての「教育の自由化」は、能力（＝文部省は、個性と読み替える）に応じた教育（＝能力に到達した生徒だけの教育）を目指し、展開されている。平等な学力保障で、良質な労働力を目指した従前の教育は、終身雇用の日本的労務管理体制では活用できたが、新しい国際競争の時代には、主体性が不足し、対応できないと、激しい競争に対応できる主体性をもった産業戦士作りが目指されている。

そのために、「総合学科・単位性・学校間連携・入試改革」などの教育改革が、「新しい学力観」を教育原理として、学校内で模索されている。主体性が要求される以上、学校現場でも、それぞれの現場でプロジェクトチームのアプローチが要求され、従来の管理主導型の実践では対応できないことは、当局も理解し始めている。いわゆる「民間型競争原理」の導入により、教職員のやる気を引き出すことこそ、教育改革の条件整備の最大の要となっている。学校内分掌や、学年団、委員会内の「提案」を制度化することが、当面目指され、次には、「職務階層・能力給与」の強化を目指してくるだろう。民間的手法が、どんな導入されているということを意識しつつ、「人権原理」を寄りどころとして、抜け闘っていかねばならないと思う。

久保・社党執行部は責任をとって総辞職を

——新党（リベラル）の清算なくして再建なし——

新党検討委員会は山花派へ迎合

今度の統一自治体選挙は社会党の完敗であった。「談合」といわれ「相乗り」と指摘された知事選はもちろんのこと、道府県議会議員選挙でも、ときの政権首班の党が見るも無惨な敗北である。その敗北もけつして予想されなかったことではなく、戦いの前に党内外から指弾され、その是正を求められていたのである。これに対し中央執行委員会は何んらの反省も、対策もなしえず選挙戦に突入したのであった。いや何もしないでなくむしろ逆に、敗北を助長する方向で動いたのである。その最大のもは「新党問題検討委員会」の中間報告である。戦いの最只中に、「社会党では七月の参院選はたたかえないので、この選挙が終ったら新しい党をつくりまします」というのだから頭がおかしいのではないかと思われる指導方針を出してはばからないのである。いうまでもなく基本政策の転換、消費税の引上げなど政策・方針上の昨年末の失策が重なっているが直接的には、解党して新党という山花・田辺派の策動に迎合したことである。いつ解党するかわからない党の公認候補を誰が信用するものか。選挙戦術上も最低である。

この責任は中執と久保書記長にある。ことに久保書記長は、山花派の黒幕であることは周知の事実である。民主リベラル新党を提唱したのも久保氏である。第三極としての新党構想は破産している。新党の相手としてエールをおくってきた「新党さきがけ」は社会党と新党を組む意思はない。今度の選挙選でも敗北している。この党も参院選、総選挙を通じて消滅しかねない実情である。

いずれにせよ久保書記長と中央執行委員会は必要な手続きによって二十三日の選挙終了後に総辞職すべきである。そしていつさいの新党論を精算して、社会党自体が保守二大政党に対抗する政治勢力として再起を期すべきである。山花派（田辺・久保氏等も含めて）が離脱することはやむをえない。村山内閣の地盤が弱くなるうとも、社会党らしさをもった社会党を再生・再建するためには解党派に対して毅然たる態度をもつべきである。これによって分裂的方向に進もうとも恐れてはならない。新しい執行部は解党派を切り捨てることによって、離党している護憲派の再結集ができるはずである。一時は少数派になることは（すでに少数派になつてもいるが）あつても、未来に希望のもてる政治革新の勤労者の党を守ることができるのである。

護憲派のわれわれが求める方向ではなく、社会党を解党して、参院選挙前の新党、又はその準備会（九五年宣言も決めて）ということになれば、社会党の再建は完全に不可能である。左派・護憲派はそのとき分裂を恐れず護憲派の総結集をはかり旗を揚げなければならぬ。そして護憲派らしいたたかいを今度の参院選から開始すべきである。

社会党左派には、「丸ごと新党」にもついて行くという人達も一部あるが、その思惑も破産している。

若干の総括（統一選挙前半の）

予想されたことではあるが社会党の統一自治体選（前半）の大敗は、社会党の将来を心配している何百万人の支持者に改めてショックを与えている。四十三道府県議選の結果は、社会党当選者は二百七十七人で前回より五十六人減らしている。前回も九十五人減少させているので急激な後退である。都道府県議会議員は地方・地域における党の顔であり看板である。党の組織や機関でも重要な役割を果している。これからの後半選挙になる市町村会議員と共に党の顔であり実質的の手足である。政党にとって、ことに議会制民主主義の制度による社会である今日の日本の政党にとって、いわゆる地方議員の減少は、党の存亡にかかわる問題である。国政選挙でないから党の中央執行部は直接責任がないようにいつては、とんでもないことである。中央執行部の指導性はどうかであったのか、今の日本の社会はあらゆる政治的問題がテレビ、新聞、ラジオ、雑誌等を通じて全ての国民に報道される。そこには秘密として守れるものは極めて少ない。今度の選挙大敗の原因のなかで社会党中執をはじめ国会議員の言動が極めて不遜である。前回の総選挙で敗れたときは当時の山花委員長と赤松書記長の発言がひど過ぎたことが大きく影響した。

今度も選挙直前に新党検討委員会が参院選挙前に「解党・新党」という中間報告を出し、これを中執も全員一致で同意した。決定機関でもない中執が党を解党するとか、新党に移行するというような大事なこと（党にとってこれ以上重要なことはあるまい）を、大会とか中央委員会にはかることもせず勝手に決めていたのである。まさに越権行為である。敗因の最大は新党問題である。

社会党が敗退した原因は数多く存在するが重大な問題点をあげれば、①改憲のための小選挙区制の実現に協力したこと、②社会党首班とはいえ金権腐敗の元凶・自民党の政權復帰を助ける自社との談合内閣をつくったこと。③自社と連立内閣のために、党の基本政策を百八十度転換し、いわゆる社会党らしさを放棄したこと。これによって革新政党から第三保守党への道を進んでいる。④増税反対をスローガンに消費税廃止を公約した社会党が村山内閣になったとたんに消費税率の引上げを決めたこと・明かに勤労国民と弱者への裏切りである。⑤村山内閣への批判・不支持も一段と拡大している。社会党の支持者は政治意識のうえで、他党支持者に比べ高い方である。それだけに政策、方針のうえでの誤りや、公約違反があれば厳しい批判が出る。村山内閣の施策に不満や批判があれば投票にゆかないという場合が多い。投票率の低下の部分には、かつての社会党支持者の棄権的行為があることは間違いない。

東京の知事選では、「石原」相乗り官僚政治批判の立場から、「青島」に投票したという人が圧倒的である。（社会党支持者の過半数は「青島」に投票したと見るべきだ。）

村山首相の出身県大分は、七一・七三%の投票率で一人増だけで八人の当選である。村山内閣支持の強い（いわゆる社会党村山派）九州全体では三増八減でやはり敗北である（福岡三減、熊本二減、宮崎二減、鹿児島一減で他の県は各一増）

社会党王国北海道も知事選では、新進党と公明との相乗りで勝ったが、道議選では六人減の後退である。知事選の経過のなかで三人の国会議員を失っている。敗北の県は、宮城、埼玉の二人減、千葉の五人と神奈川の七人の減は大きい。さらに静岡三、愛知四、三重二、

大阪四、奈良六、鳥取三、岡山三、徳島三、の敗北である。

社会党の敗北は昨年来予想されたことだけに改めて敗因をのべるまでもないが、選挙中に多くの人に面談した際の話をもとに、社会党への批判をまとめてみると次の諸点になる。

①改憲につきながら保守一党支配をもたらす小選挙区制に賛同したとき社会党とは離れた。②五十年の社会党の歴史を捨てた基本政策の転換は許せない。③あれだけ反対運動を展開し、そのうえ税率を引き上げた社会党内閣には何も期待するものがない。④新党問題で大労組の党介入を許して迎合すらしている。⑤山花氏等を処分もできない党には未来はない。⑥村山内閣はあれだけ「自さ」に妥協しているのに「不戦決議」一つできない政治にあきれる。軍縮は当初からできるとは思っていない。⑦候補者は右派山花系が多く投票する気がしない。⑧職場の仲間の多くが社会党離れを起している。

今度の統一自治体選挙のなかで落選した候補の多数は護憲派の真面目に党活動を続けていた党員である。全電通や電機などは護憲派を選別しておきながら、自らの労組関係者には会社も応援して当選させている場合が多い。まさに労資一体の企業選挙が行なわれた。新民連やその系統の社会党は、今度の敗北によって逆に新党を早くつくれと動き出している。山花派などの新党論がどれだけ今度の選挙にマイナスになったかわからないのに「社会党の看板では、参院選は戦えない」と称して崩壊しつつあったリベラル新党に空気を入れて復活させようとしている。しかし、社会党敗北の原因の大部分は、小選挙区制の受け入れから始まって、村山内閣の消費税率引き上げに至るまで、政権亡者共によって破壊された社会党の理念と基本政策の転換に最大のものがあつた。

この社会党の現実から、護憲の党、勤労者の党としての社会党を再建・再生させようとしても百パーセント無理になりつつある。ましてや「丸ごと新党」となれば完全に第三の保守党への転落である。それでは丸ごと新党になれば生き延びられるのか、ということもムズかしい。小選挙区制がある限り、第三極ということでも新しい保守党では意味がない。今度の東京と大阪の知事選の結果は、政策や理念のうえで対決点がなければ、政党がいくら談合して集まっても選挙に勝てないということを教えている。

それでは我々のめざすたかいは何か。まず参院選挙では「護憲社会党」の旗を高く掲げて、比例区選挙で勝つことである。参院の比例区選挙では小選挙区のように国内を分割されていない。全国どこから投票しても大丈夫である。それだけに全国的に「護憲」の間を結集して、社会党の再生再建のためには組織の再編をはかることである。右派が新党を強行すれば間違いなく党は分裂する。それは参院選挙後であっても同じことである。山花派が飛び出しても分裂であることにはまちがいない。しかし社会党を完全に圧殺するために、「丸ごと新党」を右派は主張するであろう。連合傘下の主要単産はこれに賛成するといわれる。しかしわれわれは、労働組合の良心派や社青同、社会党左派党員を結集して新たな革新政党をつくり出さねばならない。

(政権研究班)

◇そこが知りたい◇
円はどこまであがるの？

円高、ドル安の経済学(一)

ある学習会でのことです。円が八十円台に入ってマスコミは大騒ぎしてるけど、外国為替ってよく分らない。分りやすく「社会通信」で解説してくれないかとの要望がありました。ホントそうなんです。

円はドンドン上がるのに株式や金の価格は下がりつ放なしです。連続講座的に外国為替中心に考えてみることにしました。面白いものになりますか。乞うご期待です。質問、疑問等ドンドンお寄せください。
 (編集部)

日本は黒字、アメリカは大赤字

Q 円が一ドル〇八〇円台に入ったと大騒ぎしてるけど、どこまで上がり続けるのかしら。
 A 日本とアメリカの貿易収支が均衡するまで上がり続けると思うよ。これからいろいろ出てくるけど、ドルの値うちが下がり、円がドルにたいして上がるのは、根本的に貿易収支の構造にあるんだ。日本の貿易はなんといわれてる。

Q 輸出がさまざまいわね。新聞じゃ黒字は千二百億ドルを超えんといってる。一ドル、百円としてエッと、十二兆円か。億とか兆とか、わかんない。家計は千円単位なんだから。
 A ところでアメリカはどう。

Q 新聞には赤字が千四百億ドルを超えるって出てるわね。十四兆円ね。日本の黒字の倍、赤字だ。

A そうなんだ。日本はまっ黒、アメリカはまっ赤。しかも、日本とアメリカの貿易は日本が一方的な輸出国。アメリカの赤字の約半分が日本との貿易で生まれてるんだ。

日本はアメリカからなに買ってる。

Q 自動車の輸入がふえてるって、どこかで見たけど。でもたいしたことないわよね。街で見るのは政治家や恐いお兄さんらしい人が乗ってるベンツが圧倒的だし、BMW、たまにボルボね。アメ車ほとんど見ないもの。

この間、アメリカに卒業旅行に行った友達の見送りに行ったけど、飛行機はみなアメリカ製ね。JALだとかANAとかマークは大きかったけど。

A グルメ・ブームは若い女性にもおよんでるようだけど、あなたは何が好き。

Q お肉。ステーキなんて最高…、それにカニなんかもいいわ。

A 食べ物の話になると元気になるんだから。牛の飼料は…。

Q みんなアメリカね。小麦にトウモロコシに、お豆腐の材料の大豆。農産物はみんな輸入だ。とすると、農産物…。

A 兵器もそうだろう。AWACSとかイージス艦、それにミサイル、戦闘機…。

Q それじゃアメリカは後進国なみじゃない。

A そうなんだ。パソコンで安売り攻勢かけてるようだけど、貿易黒字が逆転するにはほど遠いと思う。たとえ、コメを全部自由化し、ウマイといわれるカリフォルニア米にたとえ全部しても、貿易収支にはほとんど影響ないのが現実なんだ。日本のコメ需要は一千万トン弱だから、アメリカにそれだけの生産能力はないんだ。

Q ジャー、アメリカに未来はないの。

A ないね。だから、円がドルに対し上がりつづけるんだ。アメリカと日本の貿易収支が
つり合うまでね。

Q 一ドル、五十円でこともあるの。

A 貿易収支がどうなるかshideいね。近い将来、八十円台突破もありうると思うね。
Q ますます為替相場が分らなくなっちゃった。

円が百円から九〇円でどうして、円高なの

A 歴史を見てみようか。あなたは知らないだろうけど、円は一九七一年八月まで一ド
ル三百六十円だったんだ。この年の八月一五日、ニクソン・ショックというのがあって、
十二月、アメリカは突然、金とドルの交換停止を発表した。

Q 知るわけないじゃん。私まだ二十歳台だもの。

A それから円はドルに対し上がりつ放なしなんだ。七一年十二月に一ドル三百八円に
なってから、七五年十二月に三百七円になり三年後の七八年十月には百七十五円台になり、
それ以降約十年間は二百四十円台を中心に乱高下してたけど、八五年以降、一気に円高が
進んで八八年に百二十四円台、そして九三年に百円台、昨年九十円台に突入し、今回いきな
り八十円台に入ってる。約二十年の間に、円はドルとの関係で七五%も強くなったんだ。

Q 強くなったって、どういう意味なの。ちっとも分らない。だって私の専門は自然科学
よ、経済のこと分るわけないじゃん。初歩的な質問かもしれないけれど、一ドル三百六
十円が一ドル八十円台になって、なんで円高なの、三百六十円から九十円へと四分の三
も「安く」なってるじゃない。まず分らないのはこのことなの。

A なるほど、じいさんが小学生の孫から円が「安く」なって円高か、説明してよ。おか
しいじゃないといわれ、口をモゴモゴさせたよと言ってたけれど、同じ質問だよね。

Q 小学生と同じにしないでよ。私は自然科学の分野じゃプロよ。私に理解させないで、
多くの国民に納得させられるわけないでしょ。

A あなたは外国に行ったことあるだろう。

Q 毎年行ってる。学界とか有給休暇利用して。

A なら分るだろ。ジーンズはいて寅さんみたいに歩き回ってるあなたには無縁かもしれ
ないけれど、たとえば帝国ホテルのような一流のホテルに泊ったと考えてみてよ。

Q その仮定が無理なのよね。はじめからそんなこと考えてないもん。安宿さがして泊る
のが私の流儀なんだから。

A あなたは五月にまたイギリスに行くといってたね。

Q 年休たまってるもの。帰ったら机どころか会社が残ってるかどうか心配だけど。だけ
ど、現金ははなし、みんな円高を歓迎してるの。旅費は安くなり、おみやげをたくさん買
えるって。

A まさに現金そのものだ。それがウーマン・ライフかい。

Q 私はヤングよ。

A 同じだろ。

Q 私はヤ・ン・グ。

A 十代の時、二十代をオバンといってたんじゃないの。

Q ……。

A 一ドル、百五十円としてアメリカに行ったとするね。為替レートがフロントに掲げら
れてるホテルに泊るとするね。あなたは円だけもってアメリカに行つたでしょう。宿泊費は百
ドルを想定したとするね。ホテルの為替レートが一ドル九十円となった場合どう思う。

- Q 一ドル百円と考えてたから、それが百円となれば、一ドルを買うのに九十円ですむ。十円得、そういうことかしら。ムムム、アメリカ国内旅行は十%オフ(安)ですんじやう。
- A そういうこと。分った?
- Q なんとなく。
- A たとえば
- Q 一日、二万五千円かかると思ってたアメリカ旅行が一万三千五百円ですんじやうってこと?

ドルの値うちは十年で半分になった

- A そのとおり。ぼくは海外の週刊誌とってる。十年前、年間講読料は四万円をこえてた。ところが今では二万円弱。
- Q 十年前、円は一ドル、二百円をはるかにこえてたわ。今は百円。円の購買力は二倍を越えたのだから…、半分以下になるわね。
- A そういうこと。少しは分った?
- Q なんとなく…
- A 得してるだろう。
- Q 百円のところ九十円ですむんだから、得だよ。当初の費用が九割ですんじやうもの。
- A 手っとりばやくいえばそういうこと。
- Q 円が私の旅行中にもっと上がればいいな。
- とここで、なぜ円が上がったり下がったりするの。お金が上がったり下がったりするの、よく分らない。
- A インフレって知ってるかい。
- Q 経験ないもの。「価格破壊」なら知ってる。パソコン一年前に買って損しちゃった。家にパソコンおくと、徹夜になっちゃう。だから、仕事は会社だけと買わなかったの。下宿もせまかったから。
- でも借家代わって少しスペースにユトリができてパソコン買ったんだけど、今じゃ半値。だから損しちゃった。下宿代わるの一年遅ければ得したのに…。
- A 大企業の製品ほどそうだよ。あなたの会社も世界企業の一つだろう。
- Q そうかなあ。よく分らない。
- A あなたのところでつくってる製品いくらだと思っ。
- Q 高すぎるかもね。
- A そうだろう。高いんだよ。大きな会社たくさんないだろう。
- Q 私の業種でも七、八つくらいかしら。
- A 値だん、これだけにしましょうよといえ、会社どうしの話しはかんたんだらう。
- Q 言われてみればそうかもね。だけど、私にはよく分らない。
- A ドルはこれまで世界を一人のし歩いていったんだ。ところが、アメリカの経済が弱くなっちゃった。輸出はダメ、国内の財政もダメ。ドルは全世界で通用してるだろ。海外旅行でおみやげ買うとき、円で払ったことある。
- Q ドルかその国の国内通貨だわよ。ほとんどドルだけ。円ではダメね。円だしたって、集団の観光旅行はどうか知らないけど、ジープンで、コンニチワの店は通用しないわよ。そんなめんどろなこいってないで早く、なぜ各国の通貨が売買されるのか教えてよ。(つづく)

◇『社会通信』六百号に寄す◇
私の生き甲斐、健康法

真鍋知己(まなべ病院長)

一九九五年三月十九日の新聞に、村山内閣が細川内閣と同日に並んだとありました。昨年からの政変劇で、反対を続けた小選挙区制が決り、よもやと思つた自民・さきがけとの連立内閣が、村山首相で実現しました。まさかと思う基本政策の相つぐ転換で、社会党の矛盾を嘆く中に、統一地方選挙は迫り、全国的に党公認候補の減少が目立ちます。一方では護憲ネットワークの様な、全国組織が次々に結成され、呼掛に応じて全部に加盟しました。大同団結を希望しながら。

六十八歳の小生ですが、健康に恵まれ社会新報七〇一八〇部の手配りを続けています。新報の発刊が続く限り配布集金を続けます。

円高で八十八円台となり、自動車・家電・エレクトロニクス等、日本の輸出を牽引してきた産業が悲鳴をあげ、製造業の海外移転による産業の空洞化は、止まる所を知りません。噂では円高は七〇円台もと聞きました。

資本主義の不均衡発展は、予想外の展開もある筈です。しかし、日本の階級構成は、資本家階級〇・六%、労働者階級七六%、農林漁民六%、小企業者一六%、その他二%と、あまり変わらず、GDPの減少で失業者は激増し、国民総中流のまやかしは通用せず、化の皮は剥げ落ると思います。

独占資本が日本国の立法・司法・行政の三権を握り、第四の権力と言われるマスコミまで掌握し、国民の洗脳を続けようとしても、日本経済の実情は嘘を許さなくなり、資本家階級が支配の自信を喪失する時が、必ず来る筈です。その時こそ社会主義革命の好機です。労働者階級の先頭に立ち、革命の指導をする政党が健在でなければ、成功はおぼつかないのですから、その目を目ざして、階級意識を高め、党の再建をはかり、根気よく毎日の努力を続けようと決心しています。

小生の生存中にその時が来るかどうかは別にして、社会通信の愛読者として、生涯の生甲斐、健康法として続けます。(一九九五年三月二日)

◇『社会通信』六百号に寄す◇
裏切り共を退散させよう

木村哲蔵(私鉄労働運動研究会)

昔むかし(一九六〇年の昔話)、地方の小さな町のバス会社。分裂した第一組合が、春闘の賃上げと一時間の時間短縮を要求して、一二〇日余のストライキ。

ある日、会社に雇われた暴力団と第二組合員が運転する一台のバスが、ピケットラインから逃げ出した。それを追いかけたのが一人の青年。バスが全速で逃げるのだから、バスはすぐ見えなくなりました。その時、彼は電柱に登ってバスの逃げる方向を追った。バスは町外れの墓地の方向に向かったことを確認。仲間と墓地の周辺を捜したら、逃げたバスが墓地の中に隠れていた。バスには数人の暴力団員。容易に取り返すことはできない。

そこで仲間たちは知恵を出し合った。真夜中の真っ暗な墓地の中、数人の仲間たちがソーツとバスの床下に潜り込み、秘かに怪音を(幽霊が出た時のような)出したのです。中に寝ていた者たちは怖くなりバスを放棄して逃げたので、再びバスをピケットラインに納めたという、三五年前の昔話。

最近、地域の仲間がさりげなく話した一言。
 「組合には分厚い方針はあるが、長期的な戦略が全く無い」
 私は考え込んでしまった。

支配権力に奪われた「階級的な労働運動」を「どういう方法で取り返すのか」、その方法は「大衆の英知を結集するしかない」。相手の「弱点にさりげなく迫り」「裏切り共を退散させる方法」がない筈がない。必ずある。その役割を、全国的な規模で実践しているのが「社会通信」ではないのか。私が「社会通信」の中で一番好きなのは、読者からの便りと、それに対する編集・発行者からの一言。「闘う大衆の英知に学ぶ」という労働運動の基本原則を感じさせられるからです。皆で英知を結集し、早く裏切り共を退散させよう。「社会通信」一九九年、六〇〇号、心からお祝い致します。握手。

◇「社会通信」六百号に寄す◇ 驚異の六百号

小林 晃（神奈川大学教授）

零細な個人企業でありながら、旬刊「社会通信」が創刊以来一九九年、六〇〇号達成とは驚きである。王貞治の生涯ホームラン世界記録六〇〇号ではないが、世界にも例の少ない驚異的記録といっても過言ではあるまい。

創刊の一九七七年といえ、いわゆる協会規制問題の最中であり、それ以降今日に至るまで厳しい情勢の連続であった。しかしそれだけに、階級闘争の正道にたつて発信を送り続けた「通信」は、存在価値をますます増大し、多くの読者の支持を取り付け得たということもできる。だが同時に、旬刊を長きにわたって維持し続ける経営・出版上の困難は、比較的平穏な時期とは比べようもなく大きく、この間の努力と苦労は並大抵のものではなかったはずである。

しかし、これだけの偉業はたんなる努力と苦労だけではとうてい達成不可能である。社長の鋭く的確な階級の感度と頭の回転の速さ、抜群の編集能力と敏速でタフな行動力、それに有能、沈着なよきパートナーの「内助の功」、この名コンビの二人三脚の賜である。

この約二〇年間の情勢の激動のなかでも最たるものは、やはり何と言ってもソ連・東欧の「崩壊」であろう。変り身早く流れに流されるのは、これまでも内外を含めて歴史上しばしば繰り返される社会現象の一つといつてよいが、小生が専門とする経済学や財政学の分野でも、ご多分に洩れず、マルクス離れは雪崩を打つ感がある。だが、時流に迎合する分けの分らない新「理論」が横行する状況であるだけに、かえって一層「資本論」や「帝国主義論」の理論的正しさと偉大さが、ますます突出してみえる。

残念無念なことではあるが、樹立後七〇年経って政権が中途で挫折したことをもって、社会主義は終ってしまったと断定する学者も増えている。自分の短い―悠久の歴史に比べて―一生を尺度としてしか物事を見ることのできない近視眼的早合点の類である。

「社会通信」は、その創刊の辞において、「社会通信というからには、社会正義の促進のために必要かくべからざることを選んで、読者に供せんとすることをもって本務とした」と述べている。これからも情勢が必要とするかぎり、社会正義の進路を照らす灯台として、未長く立派な通信を社会に送り続けて貰いたい。

問われる労働組合の存在意義

——阪神大震災下の労働組の役割は?——

九五春闘は「阪神大震災」「N.T.T」そして「円高」の三つの「ショック」で惨たんたる状況となった。連合の路線の本質が地震と円高で一挙に露呈されたのである。N.T.Tショックはそのあらわれに他ならない。

労組が企業の論理、つまり資本の論理に完全に包摂され、結果、春闘は崩壊したと見るのが正しいだろう。兵庫の仲間から地震下の労働組の動向について報告をいただいた。

(編集部)

私が大震災後強く感じたのは、二つの意味で一月一七日以降、労働組合が存在しなくなつたことです。

第一に、市職本部(支部役員も含めて)は現場の厳しい労働実態を把握する努力を怠つたことです。当初の一週間は電話連絡すらとれなかったことを考慮しても、明らかに努力不足です。いくら防災指令三号発令下といえ、泊り勤務や休暇も満足にとれない中、すべての私生活を犠牲にして仕事優先で職員は働かされています。

過労で倒れる者、自ら被災した者、交通しや断で通勤に何時間もかけてくる者など数え上げればキリがありません。非人間的で奴隷のような労働環境が放置されています。その上に残業手当の問題や春闘要求のタナ上げなど言語道断です。

労働組合が本来果たすべき働く者の生命と権利を守るといふ役割が放置されたといつて過言ではありません。

第二に、この間の神戸市当局の復興計画に労働組としての態度表明がならななかつたことです。法の時間的な制限もあり一定の期間内に計画を策定せざるをえないとはいへ、今回の計画策定にあたっての神戸市当局の態度は余りにも拙速であつたと言わざるをえません。

なぜもっと住民と十分な話し合いが出来なかつたのかと思います。当該地区の住民の多くは、他都市に避難していたり、避難所にいる人も生きていくのに精一杯で計画どころではありません。どうして神戸市当局は住民の意見を集約できたのだろう。なぜ新法(復興特別措置法)制定まで待てなかつたのであろうか。

今回、審議会のあり方も含めて神戸市の非民主的な体質が市民の前にさらけだされました。都計審議会につめかけた市民を排除するためにかり出された都市計画局の職員の心中には複雑なものがあつたにちがいません。というのも、住民と行政の間に不信と緊張が高まれば高まるほど今後の仕事はやりにくくなり、トラブルも増えて苦勞も多くなります。そのことを一番知っているのは第一線の市職員であるからです。

日頃、自治研をつうじて民主的な行政を研究している市職労がなぜ政策的な提言を行えないのか。空港問題、大規模プロジェクトやイベント中心主義などについてもなぜ政策提言を出さないのか。このことも自治体の労働組の果たすべき重要な仕事のひとつだと思つたのです。

以上、二つの点で労働組の存在意義が問われていますし、一月一七日以降、市役所の内と外で民主主義が存在しなくなりつつあります。(戒厳令下の職場にて。X)

◇読者からのおたより◇

漱石「こころ」を読む 夏目漱石の名作「こころ」について書きます。東北の田舎の資産家の息子Aが、東京の大学に在学していました。息子は伯父に財産の管理をまかせていました。ところがその留守中に、伯父に財産を横領されてしまいました。

そのことがあったことでAは、人は一切信用できないと思いました。そして人は信用できないが、自分だけは信用できると、堅く心にちかったのです。

その頃Aは親友のBと一人娘のいる未亡人の家に下宿をしていました。ある日のこと、Bがおじょうさんを好きになったので、どうしたらよいかと相談をうけたのです。Aは先手を打って、未亡人におじょうさんを下さいと言って、同意をえましました。

そのことがあってからBは、自殺してしまいました。Aが自分だけは信頼できると思っていたのに、親友を裏切ってしまったのです。漱石が「こころ」で一番いいと思ったことはこの世の中に、鋳型にはめたような、悪人も善人もこの世にいないということです。善人がいつ悪人に変化するかが恐ろしいのです。

私は「こころ」を何度も読んで、人を百分信用しないことにしています。自分でさえ信用できないのに、なんで他人を絶対信用ができません。そうすることが、身内や、他人と仲よく永くつき合えるのです。以上私が「こころ」を読んだ感想です。うまく書けないのが残念ですが、ごめんなさいね。

(群馬・富山)

労働組合がなくなった 一月一七日の震災発生後最初の一週間は救援物資の配送、その後は避難所勤務、二月に入ってからには罹災証明書の再調査のコーナーにおり、現在に至っている。疲れが蓄積しており肉体的にも精神的にも限界である。

今回の震災ではつきりしたことは災害発生当初の当局の反応のお粗末さである。本部の意志決定の遅れと区当局の本部の指示待ち対応の顕著さである。救援体制を整えるまでに十日以上の日数がかかっている。一方で現場職員の献身的な救援活動があったものの、当局のお粗末な体制と官僚的な対応をカバーするものとはなりえず結果的に現場職員の努力も報われることはなかった。

(神戸・M)

貴重な光 「社会通信」は汚れた情報の中の貴重な光です。最近では加藤晋介先生の「憲法をどう読んだらいいのか」等、とても勉強になりました。

(町田・閔根)

全国交流の役割になえ 毎号楽しみ。「新党」に飲み込まれず護憲の基本政策を掲げる力の結集をめざすことが今大切。今後の全国交流の大切な役割を担って。

(富山・N)

資本の論理と大震災 活断層がもたらした阪神大震災から約一ヶ月後、阪急・西宮北口駅に降り立った時、商店街、飲食店街、住宅街の全半壊のすさまじさに言葉を失った。持参のヘルメットを着用してガレキのあとかたづけ作業に取り組むが、その膨大な量に出来ることは限られる。資本の繁栄神話の末路は結局、一般庶民や中小零細業者の頭上に重くのしかかる。私の住む静岡県下でも活断層の上に、原発や観光サファリアパークなどの建設が人びとの強い反対を無視して強行された。資本の災禍はすみやかに排除されなくてはならない。

(静岡・T)

鹿児島に帰るために 国鉄闘争の全面勝利なくしては鹿児島へはもどけません。また労働者の党の行方も気がかりです。

(柏市・M)